

名古屋芸術大学グループ 通信

03
February
2007



Feature

期待すること
新学部・学生に

〈特集〉新しい
教育・保育系学部が誕生します
人間発達学部 子ども発達学科

News/topics ニュース&トピックス

音楽学部

- 2006年度音楽企画 ザ・ルネッサンス21
- 音楽療法コース 教員によるコンサート
- 名古屋芸大オーケストラ 第24回定期演奏会

美術学部

- リノ・タリアピエトラ氏「特別ワークショップ」
- 人間国宝 鈴木藏先生による公開講座「陶芸と私」
- 神戸教授が日展文部科学大臣賞を受賞

デザイン学部

- ジョージ・ハーディ氏による 展覧会・講演会・ワークショップ
- ジェームズ・ダイソン氏 デザイントーク

大学・短大・専門学校

- '06学園祭
- 第17回生涯学習 大学公開講座

幼稚園

- クリエ幼稚園・滝子幼稚園行事アルバム

Information

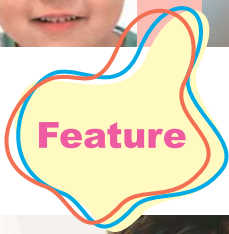
インフォメーション

- 2007年2月以降の主な行事・イベントスケジュール
- 編集後記





<特集>人間発達学部 子ども発達学科



新学部・学生に期待すること

新しい教育・保育系学部が誕生します

名古屋芸術大学は、四番目の学部として人間発達学部(子ども発達学科)を文部科学省より設置認可を受け、本年4月に開設します。今回の特集は、開設される新学部に期待すること、また、新学部の学生に望むことについて、保育園・幼稚園・小学校それぞれのお立場の先生方から激励のメッセージをいただきました。人間発達学部の教育目的と求める学生像や卒業生の資質については、学部長予定者の太田先生にまとめていただきました。



● 保育は「人」なり 基本指導と専門教育の充実を

2007年度より4年制の新学部としての設立、誠にありがとうございます。現在の保育所を取り巻く現状はめまぐるしく変わりつつあります。少子化の傾向が回復の兆しを見せず、人口減少社会に転じていく状況にあります。こうした中で保育所は様々な保育ニーズに対応しております。又、乳幼児が穏やかに育つ環境の整備と保育の質の向上がなお一層求められています。そのような中で、貴校のように明確な教育目標を設定した保育者養成学部を展開していただくと、現場としては心強く思います。

1,2年目は保育指導原理(新設)の中で、ソーシャルワーカー、カウンセリング、保護者対応、医療等の分野を考えていただき、

基本指導(記録の書き方、子どもの姿、ねらい、内容、環境の構成等を押さえての日案、週案、月案等)の押さえや、実技(手遊び、リズム遊び、集団遊び)又、コミュニケーション力をより高めるため、人と関わる力(子どもが好きだけでは保育者として十分ではないので、話し方、実践トレーニング)の養成。後の2年間は、福祉施設、障害者施設、老人施設等でじっくり実習していただき、一方通行ではなく、必ず指導、反省をすることが大切であると思うとともに、専門を一層身につけて現場へ出していただけると有難いと思います。私が常日頃思っている事、現場で望んでいる保育士像を箇条書きで書いてみました。

1. 素直で前向きな人
2. 人の話を聴こうとする人
3. 保育士だけでなく周りの人に気づくことができる人
4. 精神的、身体的にも元気人

いろいろと思っていることを述べさせていただきました。最後にやはり保育は「人」ではないでしょうか。

▶ Comment on
社会福祉法人 清心会
理事長

福上 道則
(ふくうえ みちのり)



● 教育者として自ら学ぶ姿勢を大切に

幼稚園では、教師になれば、すぐに学級担任として、一人で学級を運営することになります。幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説に述べられている教師の役割については、幼児が「幼児期にふさわしい生活をする」ためにも、大学では、知識として学んで欲しいところです。もちろん、幼児の状況に応じた適切な援助についての指導方法は、教師になって、目の前の幼児に接しながら幼児理解をしたり、園内外の研修で学んだりしながら、自分自身を高めていけばよいことであります。また、学級担任となれば、当然、幼児の保護者と接していかねばなりません。

最近では、保護者の我が子に対する望み

が高かったり、逆に子育てに不安や悩みを感じたりして、担任への要望や相談が多くなってきています。それは、我が子を一番よく知っている教師として、保護者は担任を頼っていることです。しかし、「子どもが好きだから」「子どもと一緒に遊んでいけばよいから」「子どもの世話をするだけでよいから」という思いだけで、幼稚園の教師になった人では、自ら学ぶ姿勢もなく、保護者の対応にも応えられません。自分が思っていたように“楽でなく”“自分がいやなこと”があれば、すぐに休む、辞める人も、最近ではめずらしくありません。担任教師は、新学期が始まればその一年間を勤める“責任感”と“心身ともに健康”な“人の心

を分かろうとする人”が、現場では必要です。教員養成校では、教育者になるという意識をもって学んで欲しいと思います。

▶ Comment on

愛知県公立幼稚園長会
会長

伊藤 冴子
(いとう さえこ)



● 現場の教師に求められるもの

学校教育の現場では、着任したその日から一人前の教師として仕事をしなければなりません。そのことをいつも念頭において充実した学生生活を送ってほしいと思います。はじめから、ベテラン教師と同じようにいくはありませんが、子どもが、「今日も先生に会いたいから学校に行く」と思える教師、保護者が、「安心して任せられる」教師を期待しています。

そのために、次の二つの力を身につけることを願っています。

一つ目は授業力です。教師は、授業で勝負すると言われます。授業を通して、子どもも持っている可能性を引き出し、伸ばしていきます。教育に関する様々な文献を読

んで考えを深めると共に、他の分野の書物から人間の生き方や社会を洞察する目を養い、内面を豊かにする努力をしてほしいものです。また、部活や趣味、自然体験など多くの体験から身につけたものは、知識で得ただけのものとはちがって様々な場面で生かされます。

二つ目は人間力です。学校教育の中で、教育活動、学級経営の充実を図るためには、子どもたちとはもちろんのこと、教職員間や保護者とのコミュニケーションを円滑に行うことが大切です。積極的に、しかも謙虚な気持ちで人間関係を構築する社会性を養ってほしいものです。さらに、学級や学校は、子どもたちにとって、社会生活の第

一步を学ぶ場です。教師自身が判断力や指導力を身につけ、子どもたち一人一人の個性を生かし、共感の心をもって接し、毅然とした態度で臨まなければなりません。

教師として全ての源となる教育愛や情熱あふれる新しい仲間を待っています。

▶ Comment on

北名古屋立鴨田小学校
校長

遠藤 はるみ
(えんどう はるみ)





人間発達学部(子ども発達学科)の教育



1 人間発達学部(子ども発達学科)の教育目的

名古屋芸術大学は、開設以来、音楽・美術・工芸分野での中学校・高等学校教員を養成し、卒業生の多くが各地で教員として活躍しています。また短期大学保育科も前身の名古屋自由学院短期大学以来、一貫して保育者養成に従事して、多くの保育者を送り出し、その実績から高い評価を得てきました。その短期大学部保育科を母体として設立される人間発達学部(子ども発達学科)では、現代社会における子どもたち、親たちのおかれている生活・文化状況と課題を把握させ、その中で、今日の乳幼児保育・小学校教育の状況と課題を教育します。そして、人間の発達のすじみちを科学的に学び、その健やかな発達を可能にする、保育・教育内容と方法を探求し、次のような教育目的を設定して教育を展開いたします。

- 講義や演習で得た感性や知識や技術を、実習で試す理論と実践を融合した教育を展開して、採用当初から学級担任として支障を生ずることなく小学校・幼稚園・保育所において適切な指導が展開できる基礎的・基本的な資質能力を有する保育者(教育者)養成を目指します。
- ゼミ活動、クラブ活動、ボランティア活動を活発に展開して子どもや地域の人々と関わる機会を拡充し、また「子育て支援」の活動もより強化しながら地域社会とともに取り組み、共感的に人間関係を形成

していく実践的指導力を有する保育者(教育者)養成を目指します。

- 子どもの感性豊かな心の健全な発達に関係するのが、音楽や美術などの芸術です。本学には、音楽学部、美術学部、デザイン学部があるので、演奏会や展覧会など本物の芸術に直接触れる事ができる環境が整っているというメリットを生かし、芸術的感性と表現力を兼ね備えた保育者(教育者)養成を目指します。

2 人間発達学部(子ども発達学科)の求める学生像

人間発達学部には、こんな人が入学して欲しい、と思っています。

保育者(教育者)は、子どもの望ましい育ちを援助するのが役割であるので、相手となる元気な「子どもが好きであり、行動力がある」こと、また手の掛かる子どもも存在するので「子どもの可能性を信じて、忍耐強くやり通すことができる性格である」ことです。さらに教育はこれからの共同社会の構築にかかる営みであるので、「学ぶことへの意欲がある人」、「仲間とともに活動することの好きな人」を望んでいます。

3 こんな資質の卒業生を送り出したい

今後の幼児教育の在り方として、幼稚園などの施設が家庭や地域社会と連携して総合的に幼児教育を推進するため、また、幼

児の生活の連続性を踏まえた幼児教育の充実を図るためには、小学校就学前の子どもたちの育ちを幼稚園と保育所で区別することなく保障していく必要があります。そのため出来る限り幼稚園教員免許と保育士資格を併有した卒業生を送り出します。

また、今日幼稚園と小学校との連携に関して、人事交流や相互理解及び教育内容の接続などのため、幼稚園教員免許と小学校教員免許の併有を促進する必要性が指摘されているので、併有した卒業生を送り出します。

さらに当学部での教育を通じて「先の目的」を追求すると共に、教養教育と専門教育を通して人としての「道理を身に付け」、また1年次から4年次まで継続する専門ゼミを通しての教育で、「オンリーワンのスキルを持つ(これだけは自信が持てる)」卒業生を送り出します。

なお、教員養成教育では、「子どもたちへの教育」に繋がるという視点が乏しいとの指摘があるので、当学部では小学校・幼稚園・保育所などの経験者による指導を通じて、採用当初から教育者(保育者)として支障を生ずることのない卒業生を送り出します。



太田 悦生
(おおた えつお)
人間発達学部
学部長(予定者)

音楽学部

2006年度音楽企画 ザ・ルネッサンス21

2006年度の音楽企画「ザ・ルネッサンス21 colors—アナタハ、何色デスカ?—」が12月21日(木)午後6時30分から名古屋市中区のしらかわホールで行われました。音楽はもちろん、それを取り巻く環境やコンサートも時代や社会背景と共に変化していきます。21世紀、新しい時代の訪れと共にこのルネッサンス21は始まりました。ルネッサンス21とは、名古屋芸術大学音楽学部音楽文化応用学科、音楽文化創造学科の学生が企画・運営・作曲・演出を行い、オーケストラによる演奏というアナログとスクリーンに映し出される映像によるデジタルとを融合させた21世紀型の新しいコンサートです。

これまで多くの観客を魅了してきたルネッサンス21。第4弾となる今年は「色」と「音楽」をテーマに、さらなる新たなコンサートの形を求め挑戦しました。指揮者に高谷光信氏を迎え、セントラル愛知交響楽団の演奏のもと、スタッフ総勢300人によって創り出されたステージは、まさに前代未聞のコンサートとなりました。

プログラムは開演前と休憩、エンドロールのBGMも含めて全20曲でしたが、演奏楽曲はすべて、サウンド・メディア選択コースの学生による本日初演のオリジナル作品でした。雄大かつ壮大なイメージの曲目が眼を惹きました。正面の大型スクリーンに映し出されるカラーの演出は、音楽療法コースの学生たちがそれぞれの曲が持つ「色」を引き出し、観客の立場に立って考え、映像に工夫を凝らしたものでした。

このルネッサンス21は、一般的な聴くだけのコンサートではなく、スクリーンの映像に合わせて観客が鈴を鳴らしたり、ペンライトを振ったりと、オーケストラとのコラボレーションが演出されていて、いわゆる「観客参加型」のコンサートでした。また、「アナタハ、何色デスカ?」のタイトルにちなんで、今自分自身が感じている色や、持っている色を診断する「カラー診断」が行われたり、休憩時間のプレゼント抽選など、本当にこれまで体験したことのない楽しく素敵なコンサートでした。



レクションが演出されていて、いわゆる「観客参加型」のコンサートでした。また、「アナタハ、何色デスカ?」のタイトルにちなんで、今自分自身が感じている色や、持っている色を診断する「カラー診断」が行われたり、休憩時間のプレゼント抽選など、本当にこれまで体験したことのない楽しく素敵なコンサートでした。

音楽学部

名古屋芸大オーケストラ 第24回定期演奏会

2006年10月20日午後6時45分より名古屋芸術大学オーケストラの第24回定期演奏会が愛知県芸術劇場コンサートホールで開催されました。

名古屋芸術大学オーケストラは、1983【昭和58】年に第1回定期演奏会を開催して以来、優れたオーケストラ作品の演奏、著名なソリストとの共演などで、音楽大学としてふさわしい演奏力を向上させてきました。1993【平成5】年にはシドニー音楽院と姉妹校提携し、初めての海外演奏旅行を行いました。1997【平成9】年は、韓国慶南大学校と済州島で演奏会、1999【平成11】年には、米国デンバー大学とロサンゼルスで2回演奏会を行っています。1990【平成2】年からは年に1回の定期演奏会のほか、大学の所在地である旧西春日井郡内での演奏会や音楽会への出演。また、小学生を対象とした音楽鑑賞会を行うなど地域の音楽文化の発展にも貢献しています。

今回の演奏会のプログラムは、本学音楽学部の教授でセントラル愛知交響楽団正指揮者である古谷 誠一氏の指揮による演奏でした。曲目は、ドビュッシー作曲の「海」～管弦楽のための3つの交響的素描で、海をこよなく愛したドビュッシーの代表的なオーケストラ作品。次に、モーツァルトの「ヴァイオリン協奏曲 第3番 ト長調」で、モーツァルトのヴァイオリン協奏曲の中でも今日広く愛されている若々しくチャーミングな曲でした。休憩を挟んで、最後は、ブラームスの「交響曲 第2番 二長調」が演奏されました。この曲は、ブラームスが長年にわたり草稿をあたため、熟考の末に完成した最初の交響曲(第1交響曲)が完成した翌年、オーストリア・ヴェルター湖畔の静かな森に包まれた美しい村で、わずか4ヶ月で一気にかき上げた大曲といわれています。モーツァルト



のヴァイオリン協奏曲には、ヴァイオリンのソリストとして、アレクサンダー・アレニコフ氏(本学客員教授)が出演され、その華麗な演奏が披露されました。

満員の会場の惜しみない拍手が、名古屋芸術大学オーケストラの総力をあげた演奏の実力を暗示していました。心に残るすばらしい演奏会でした。

音楽学部

音楽療法コース 教員によるコンサート

名古屋芸術大学音楽学部音楽療法コース教員(5名)によるコンサート「音のギャラリー」が2006年11月15日(水)午後6時45分より名古屋市中区のしらかわホールで開催されました。音楽療法とは、「音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること(日本音楽療法学会)」と定義されています。日本音楽療法学会認定音楽療法士であり本学の音楽療法コース講師である伊藤孝子先生が司会を担当され、最初に音楽療法についての簡単な解説がありました。

プログラムは、第一部が二胡奏者の張照翔先生とピアノの久保田進子先生の協奏が3曲、二胡の独奏が2曲、そして、久保田先生と伊藤先生のピアノの連弾が1曲、という構成でした。今では中国の楽器として親しまれている二胡ですが、元々は、中国大陸の北方モンゴル地方が発祥の弦楽器とのことです。鳥の鳴き声や人の声にも似たさまざまな音色を持つ二胡は、日本人にはとても懐かしく親しみのある楽器です。

休憩を挟んで第2部は、酒井康雄先生によるギターの独奏が3曲続けてありました。最初の曲は、あの有名な「アルハンブラ宮殿の想い出」でした。続いて、酒井先生と久保田先生のギターとピアノの協奏で「アランフェス協奏曲 第2楽章」が演奏されました。華麗なギターの演奏にピアノの伴奏がマッチした聴衆を魅了するすばらしい演奏でした。



最後は、マリンバの石田まり子先生が加わって、二胡・ギター・マリンバ・ピアノによる、チャイコフスキー作曲の「花のワルツ」から「フィナーレ」が合奏され、プログラムは終了しました。

聴衆からの熱いアンコールに応え、4名の演奏者が一曲ずつ独奏を披露してコンサートは幕を閉じました。

美術学部

リノ・タリアピエトラ氏 「特別ワークショップ」

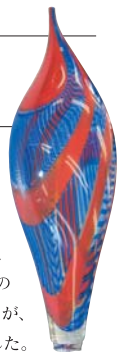
ヴェネチアングラスの巨匠、リノ・タリアピエトラ氏による特別ワークショップが、名古屋芸術大学を舞台に11月17日(金)・18日(土)の2日間にわたって開催されました。本学美術学部の客員教授として来日されたタリアピエトラ氏は、誰もが認める「世界のガラス界の巨匠」であり、現在、イタリアとアメリカを拠点に精力的に創作活動を続けておられます。このたび、その卓越した技術と、高度な技法をもって生み出される豊かな表現力が、宙吹きの実演と記念講演会を通して存分に披露されました。

初日の17日は、本学の学生を対象として、宙吹きの実演が午前、午後の二度にわたり本学西キャンパスのガラス工房で行われました。日本のハイレベルな吹きガラス作家とチームを組み、自身のイメージにある作品作りに意欲的に取り組むタリアピエトラ氏。氏の質の高い技法を目の当たりにした学生たちは、驚きと共に、創作意欲を刺激されたようです。また、チームプレーの重要性を学ぶと共に、「自分たちにはまだ知らないガラス造形の可能性がたくさんあるのだ」という感動の連続であったようです。

2日目の18日は一般公開日となり、初日と同様に宙吹きの実演が午前と午後に行われました。巨匠の卓越した技術を目見ようと国内のガラス作家や、大学のガラス教育関係の先生や学生など400名以上の方が集まりました。今回の実演では、タリアピエトラ氏というガラス界の誰もが世界一と認める作家との出会いを通じて、学生はもちろん、ガラス工芸作家、教育者、美術関係者、そしてガラス産業に携わる多くの人々に貴重な体験を与えたといえます。

午後の実演終了後は、記念講演会が本学東キャンパスの音楽講堂ホールで行われました。スライドを使っての代表的な作品の解説を中心に、自身の徒弟修行時代のエピソードなどが語られました。

今回のワークショップに参加された方は、日本のガラス界はもとより、世界のガラス芸術における技術向上と普及に計り知れない恩恵をもたらしたタリアピエトラ氏との出会いを通じて、氏の技術を学ぶと共にお互いの絆を深め、新たな関係を築く機会を得られたことと思います。



美術学部

人間国宝 鈴木藏先生による 公開講座「陶芸と私」開催

2006年12月7日(木)午後2時半より名古屋芸術大学美術学部において、重要無形文化財保持者(人間国宝)鈴木藏先生による公開講座が行われました。本学は、2006年度特別客員教授として鈴木先生をお招きしており、今回は「陶芸と私」というテーマで講演していただきました。

鈴木先生は、志野焼の大家でこの道一筋47年間のご経験を持っておられます。父親の勧めで焼き物を始め、たまたま応募した現代日本陶芸展で佳作となった事がきっかけで陶芸の世界に入られたとのことでした。先生によれば、志野焼は最も日本的な焼き物創作の一つで、日本人の精神性や美意識を内包しているとのこと。『縄文・弥生時代から始まった焼き物の歴史の中に、日本人独自の美意識や日本民族のDNAが継々と受け継がれていて今日に至っている。陶芸を志す者は、このような歴史の背景や日本人の精神世界を理解して創作することが大切である。』という崇高なお話でした。



デザイン学部

ジョージ・ハーディ氏による 展覧会・講演会・ワークショップ

2006年10月5日から20日にかけて、展覧会・講演会・ワークショップの3つの催しが、名古屋芸術大学客員教授として来日された英国のイラストレーター・グラフィックデザイナーであるジョージ・ハーディ氏によって行われました。氏は、プロとして35年間、英国を中心に世界中の依頼人のために仕事を続けてきました。なかでも、ピンクフロイドのレコードジャケット「あなたがここにいてほしい」は火炎に包まれたロボットと人間が握手するというデザインで、伝説的とも云うべき世界中の1600万人もの人々に購入されたことは多くの人々の記憶に残っており、一昨年には英国のデザイナーで最も栄誉あるRDI(Royal Designers to Industry)の称号を授与されています。



このたびの「マニュアル」というサブタイトルがつけられた彼の展覧会は、壁にそって展示画面に張られた細い丈夫な特製のワイヤーケーブルに、彼の80数点もの作品が掛けられ、2つの展示台には、彼の手になるいわゆる私家本が数冊並べられていました。大変シンプルな展示だと思って近づいてよく見てみると、そこには濃密な世界が展開されていました。「マニュアル」とは教本という意味と、自動車のオートマチックに対するマニュアル車を意味するいわゆる手動によるか、手による、とかいう意味が込められていて、様々な、あるいは様々な場における手が、様々な意味を込めて描かれており、それ自体が、マニュアル的な表現で、雄弁に品格のあるメッセージとなってわれわれに迫ってきます。それはあたかもデジタルでオートマチックな、今という時代に対する手の復権を謳っているかのようでした。

展覧会と併せて行われた「本をつくる」というワークショップでは「本とはなにか」、「何ページ以上ないと本とはいわないのか」、「印刷されていないといけないのか」と改めて問い掛けられました。学生たちはこれまでの本についての既成概念を捨てることが求められ、本をつくるにあたり「1000円の予算で5冊の本を作ろう」というプロジェクトが始まりました。彼は自分のグラフィックデザインという仕事を「ものごとに気づくことと気づかせること」(講演会演題)と補らえており、そのような観点も含めワークショップに参加した多くの学生に語り、また少人数に分けた何度かにもわたる個別指導を通じて学生とともに考えました。アドバイスを、そのまま彼らの力になっていくのだという光

景にずいぶん巡り合うことができました。

彼は講評会に提出された60数人の学生作品の一つ一つ丁寧に見て、作品に込められた学生の力を高く評価しました。彼が帰国した後も、彼の展覧会や講演、ワークショップのことを学生から聞くたびに、その影響の大きさを感じています。

デザイン学部教授 溝口 和夫



美術学部

神戸教授が日展 文部科学大臣賞を受賞

第38回日展(会期:2006年11月2日~24日 会場:東京美術館)の文部科学大臣賞(彫刻部門)に、本学美術学部神戸峰男教授の作品「長風」が選ばれました。「この作品は、二人の裸婦を交差した二面性で構成し、緊張した空間を醸し出した力作である。豊かな量感と、独自の力強いモデリングで、情感豊かに表現し、静謐な内面性を感じさせる秀作である。」というのが受賞の理由でした。また、日本画部門の特選には、荒木紀江絵画科助教授の「黄色いテーブル」が、彫刻部門の特選には、本学卒業生の田中厚好氏の「平板な家族」が選ばれました。

「長風」は、高さ185cm、横60cm、奥行き50cm塑像で、材質は石膏です。神戸教授は制作にあたって作品への想いを以下のように述べておられます。

「はるかに西に広がる地平、砂と大気に溶けていく人々の姿をみた。『透明性』『均質性』を合言葉に、経済におけるグローバルゼーションは進展の一途を辿る。そこでの価値判断は、科学的裏付けを伴う『事実』が最も大切な基準となる。しかし砂の海の彼方に、その環境が苛酷でも、逃げ出すでもなく、生命の在り様すら我々に問い直す別な『事実』も、たしかな真実として存在する。彼らは彼らの基準の下、生き続ける。西域ウィグルでの心象を塑てみた。」



本作品は、日展東海展(愛知県美術館ギャラリーで1月24日~2月18日まで開催)にも出品されています。是非ご鑑賞ください。

なお、今回の日展には、上記の3名の方を含めて合計52名の本学関係者が入選しました。

デザイン学部

ジェームズ・ダイソン氏 デザイントーク



名古屋芸術大学デザイン学部特別客員教授であるジェームズ・ダイソン氏によるデザイントークが、2006年10月25日(水)午後1時30分より名古屋市青少年文化センターアートピアホールで行われました。ダイソン氏は紙パックを使用しない掃除機を開発したことで世界的に有名なエンジニアでありデザイナーです。1978年から5年間で5127台ものモデルを試作し、1983年にG-Force(ダイソンDC01の前身)を発売。まもなく、ダイソンクリーナーは英国のベストセラー掃除機となり、今では世界中に輸出されています。

今回のデザイントークでは、ダイソン氏自らが心血を注いで製品化したあの有名なクリーナーの開発に関して、普段使っていた掃除機への不満と素朴な疑問が商品化への第一歩であったこと、サイクロン技術の導入や、試行錯誤を繰り返して妥協を許さず試作品を作り続けたことなど、新製品の開発までの過程が詳しく披露されました。

ダイソン氏は「人は不自由さに直面して初めてデザインを追及します。本物のデザインならうまく機能します。最良の製品はデザインプロセスから生まれ、内部テクノロジーの特徴が外側の見た目に現れます。私にとってデザインとは、いかに機能するかであって、見た目ではない。重要なのは内部構造である。」と語っています。ダイソン氏のデザイナーとして、エンジニアとしての仕事に取り組む姿勢や商品開発のコンセプトを表現している言葉といえます。

氏は現在、ロボット掃除機の開発などに取り組んでいて、それは既に試作機が完成しています。また、優秀なデザイナーやエンジニアの育成のために、「ダイソンデザインアワード」を日本をはじめ世界13カ国で開催しています。優秀な作品はダイソン本社で製品化が検討される事になります。

英国のダイソン本社には現在420名のエンジニアが在籍しているそうですが、英国では、優秀な学生がメディア論などをやっていて、エンジニアを目指す人が少ない事に、ダイソン氏は危機感を持っています。英国や日本にとって、優秀なエンジニアの育成が今後益々重要になると語っておられました。





大学・短大・ 専門学校

'06学園祭

2006年度の学園祭は、名古屋芸術大学と同短期大学部の「芸大祭」が11月1日～3日まで、また名古屋保育・福祉専門学校の「学校祭」は11月18日、それぞれ秋空のもと盛況に実施されました。

芸大祭は、東キャンパスでは音楽学部と短期大学部が「EXPO 2006 万博」をテーマに音楽や保育の知識を生かした本学ならではの様々なイベントが行われました。音楽学部は例年どおり豪華賞品やおもしろ企画満載のメインステージのほかに、音楽のルーツを探り、グローバリズムを意識した4つのサブステージが設置されました。短期大学部は、ボランティア活動を積極的に取り入れ募金活動を行うとともに、子ども達も一緒になって楽しめる企画が盛りだくさん用意されました。

美術学部・デザイン学部の西キャンパスは、「だっすんだ～自分の世界を信じてシャララ～」がテーマで、今の自分の考え、表現したい事、恥ずかしいけど本当はやってみたい事、さらにコンプレックスさえも、この際全部出していこうという想いを表現したものでした。自分のことを誰かにわかってもらい、世界を広げ、間違いに気づいたりする事によって成長していく。芸大祭をそんな機会に活用して欲しいというコンセプトでした。模擬店をはじめ、フリーマーケット、ミスコン&ドラコン、運び〜ん会など様々なイベントが開催されました。

名古屋保育・福祉専門学校の学校祭は、11月18日学祭実行委員長の宣言により10時から開始し、午後3時のフィナーレまで、校内、校舎はもとより滝子幼稚園の園庭も開放され、盛況のうちに開催されました。学生たちがクラスごとに趣向を凝らし、テーマ「H-ands」に謳われているように、日頃何かとお世話になっている近隣の方々、お年寄り、幼児をはじめ500名近い人たちと、心をつなぐ打ち解けられた一日となりました。



幼稚園

クリエ幼稚園・滝子幼稚園 行事アルバム



'06 11・18 親子でミュージカル
かわいいこびとさんの登場です



'06 12・16 生活発表会
ウサギになって踊ります



'06 12・21 クリスマス会
「みんな良い子ですか」「はーい」



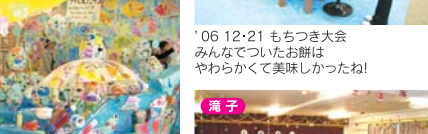
'06 11・18 作品展
子ども達が楽しく作った作品でお部屋が大変身!!



'06 12・16 生活発表会
ウサギになって踊ります



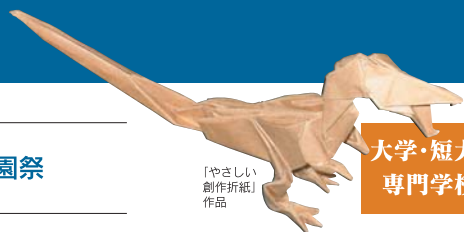
'06 12・21 クリスマス会
「みんな良い子ですか」「はーい」



'06 12・15 クリスマス会
プレゼントがいっぱいだった
楽しい一日☆



'06 12・15 クリスマス会
プレゼントがいっぱいだった
楽しい一日☆



「やさしい
創作折紙」
作品

大学・短大・ 専門学校

第17回生涯学習 大学公開講座

2006年9月から12月にかけて名古屋芸術大学第17回生涯学習大学公開講座が開講されました。社会人を主対象とした本学の生涯教育は、芸術大学としての専門性を活かして、音楽・美術・デザインと保育に関する講座を中心に、一般教養系（語学・コンピュータなど）も含めて全29講座が開設されました。秋の風情漂う東西両キャンパスと知多半島の常滑工房で、熱心な講義や実習が繰り広げられました。

今回は、本学の特徴を生かした講座や話題性のあった講座をいくつか紹介します。

【美術鑑賞入門—西洋美術の流れ】

講師：栗田 秀法(名古屋芸術大学助教授)

ルネサンスからモダンアートまで西洋美術の流れをスライドを使ってわかり易く解説しています。奈良県香芝市在住の女性は、ご主人が春日井市に住んでいる関係で、本講座を受講されていました。「展覧会にはよく出かけるが西洋美術を専門的に勉強したことが無い」というのが受講の動機でした。パンフレットを見て申し込みましたという男性は、「美術史を体系的に勉強したいので」が受講の目的でした。



【パソコンを使って簡単な作曲をしてみよう】

講師：田中 範康(名古屋芸術大学教授)

パソコンとシンセサイザーをツールとして簡単な作曲にチャレンジします。音楽の作り方をコード進行中心に丁寧に指導しています。音楽を教えているという女性の受講生は、「作りたい曲があるので、勉強したいから」が、また、バンドをやっているという女性の方は、「作曲の勉強をしたい」というのが受講の動機でした。最新の機器が揃っているのは魅力だし、自分の曲が作れるのとても楽しいという声が聴かれました。



【親子で楽しむリズム遊び】

講師：関戸 洋子(名古屋芸術大学短期大学部教授)

2歳児以上と2歳未満児に分かれて、それぞれ全5回開講されました。お子さんと一緒に音楽に合わせて身体を動かすと自然と笑いや喜びが溢れてきます。また、リズム遊びを通してお子さんの育ちを見、関わり方を考えていくと、子どもの気持ちが分かって子育てがもっと面白くなりますと言うのが講座の趣旨です。江南市から来ているという母親は、「友人が以前この講座を受講して良かったと聞いたので参加しました。また、別の母親は、「子どもと一緒に楽しそうなので参加しています」と話しておられました。



【やさしい創作折紙】

講師：日本折紙学会東海友の会

日本を代表する地元創作折紙作家5名により、最新の創作折紙を易しく丁寧に解説しています。講座では、実際に受講生に自ら折ってもらい、折紙の楽しさや奥深さを体験していただいています。東海折紙探偵団の月一回の定例会に参加していて、この講座を知ったと言う男性の受講生は、「簡単な作品はいつでも作れるが、芸術的な要素をもつ難しい作品作りにチャレンジしたい」という目的で参加していました。また、折紙で3年位のキャリアを持つ受講生は、「ボーイスカウトなどで子ども達や母親に折紙を教えたい」と言うのが受講の動機でした。各自がそれぞれの目標に向かって、楽しく折紙にチャレンジしている姿が印象的でした。



【木彫を楽しむ Part VIII】

講師：岩井 義尚(名古屋芸術大学助教授)

木を彫るこの楽しさを体験します。形を考え模型を作り、それを素に制作します。刃物で彫った時の木肌の感触、彫る感触を体験し、各自の考えた形が木の魂から出てくる実感を味わっていただくことを狙った講座です。今年で4年目という北名古屋市の受講生は、「亥宮毘羅大将」という木像を制作していました。岩井先生に4年間指導を受け、千体仏を作っているとのこと、自宅には200体以上の小さな木像があるそうです。また、春日井市から参加しているという方は、木彫が好きでいろいろな人の作品を鑑賞したいとのこと。今回が2回目の参加で、「日本人形」の一刀彫りを制作していました。数年間続けて参加している受講生の多い講座で、かなりレベルの高い作品も見られました。





2007年2月以降の主な行事・イベントスケジュール

音楽学部

第5回歌曲の夕べ

2月8日(木) 18:30開演
電気文化会館

平成18年度研究生修了演奏会

2月15日(木) 18:00開演
電気文化会館

大学院音楽研究科特別演奏会

2月16日(金) 17:30開演
電気文化会館

第11回春のコンサート ピアノのしらべ

2月24日(土) 17:00開演
電気文化会館

アンサンブル・フィラルモニク・ ア・ヴァン 第8回定期演奏会

2月24日(土) 18:00開演
名古屋市民会館

第34回卒業演奏会

3月1日(木) 18:00開演
3月2日(金) 18:00開演
しらかわホール

ミュージカル公演

3月3日(土) 18:30開演
3月4日(日) 14:00開演
アートピアホール

大学院音楽研究科 第9回 修了演奏会

3月6日(火) 18:30開演
3月7日(水) 18:30開演
3月8日(木) 18:30開演
しらかわホール

小中高校生の為の ピアノコンチェルト

3月11日(日) 14:00開演
音楽学部3号館音楽講堂ホール

第29回オペラ公演「カルメン」

3月16日(金) 18:00開演
名古屋市民会館

オペラ豊田公演「カルメン」

3月18日(日) 15:00開演
豊田市民文化会館

美術学部 デザイン学部

第34回卒業制作展

▶美術学部(絵画科・美術文化学科)
▶デザイン学部(デザイン学科)
2月28日(水)～3月4日(日)
愛知県美術館ギャラリー
10:00～18:00(金曜日20:00)

▶美術学部(絵画科・洋画)・
▶造形科・版画選択コース)

▶デザイン学部(デザイン学科)
2月27日(火)～3月4日(日)
名古屋市民ギャラリー矢田
9:30～19:00(日曜日17:00)

▶デザイン学部(デザイン学科)
2月27日(火)～3月4日(日)
本学アート&デザインセンター
10:00～18:00(日曜日17:00)

卒業制作展記念講演会 (要申し込み)

3月3日(土) 14:00開演
愛知芸術文化センター12階
講師:林真理子氏(作家)
演題:「小説を書く時間」

第11回大学院修了制作展

▶大学院美術研究科・デザイン研究科
3月13日(火)～3月18日(日)
電気文化会館
10:00～19:00(日曜は17:00)

幼稚園(滝子)

生活発表会

2月18日(日) 9:00～

一日動物園

2月26日(月) 10:30～

修了証書授与式

3月17日(土) 10:00～

幼稚園(クリエ)

おんがくかい

2月6日(火)・7日(水) 10:00～

お別れ会

3月13日(火) 13:00～

卒園式

3月15日(木) 10:00～

新入園児体験入園

3月20日(火) 10:00～

名古屋保育・福祉専門学校

2007年度入試日程

2月11日(日)
2月24日(土)
3月10日(土)
3月26日(月)

人間発達学部(短期大学部)

一般A日程入試

2月3日(土)、2月4日(日)

一般B日程入試

3月3日(土)

第39回卒業演奏会

3月17日(土) 15:30開演
しらかわホール

一般C日程入試

3月24日(土)



編集後記

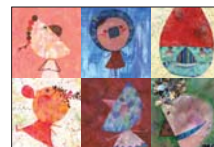
人間発達学部は本学4番目の学部として昨年11月に文部科学省の正式認可を受けました。現在、4月開設に向けた最期の準備を進めています。今回の特集は、新学部の就職先となる保育園・幼稚園、小学校の先生方から、新学部とその学生に対する期待や激励のお言葉をいただき、それらを纏めてみました。ニュース&トピックスの音楽学部は、学生が企画・運営・作曲・演出を行い、オーケストラによる演奏とスクリーンに映し出される映像を融合させた新しいコンサート形態の「ザルネッサンス21」取材しました。4回目となった今回は、色と音楽をテーマに

さらなる新たなコンサートの形を求めた挑戦でした。美術学部は、ヴェネチアングラスの巨匠、リノ・タリアピエトラ氏の特別ワークショップを、デザイン学部は、ジェームズ・ダイソン氏やジョージ・ハーディ氏など、世界的に知名度のある方々の特別客員教授としてのイベント取材しました。また、昨年後期に行われた第17回生涯学習大学公開講座については、話題性のある講座を一部取上げてみました。さらに、秋のビックイベントである「学園祭」も大学・短大・専門学校をまとめてご紹介しました。(ひ)



大学基準協会の 認証評価に合格しました

本学は2006年4月に、認証評価機関である大学基準協会の大学基準に適合と認定され、正会員になりました。認定期間は、2006年4月から2011年3月までです。これによって、法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したことになります。



【表紙の作品】

『AIUEO』木村 笑
2005年度卒業制作作品
(プライトン大学賞)

※オリジナルを元に一部加工して表現

発行:全学広報誌編集委員会
編集:名古屋芸大グループ通信編集部
制作:(株)クイックス
発行日:2007年1月31日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 芸術文化交流室
〒481-8535
愛知県北名古屋市徳重西沼65番地
電話 0568-24-0325
Fax 0568-24-0326